

4つのマイナス金利・・・？！

先月1月29日、日銀における「金融政策決定会合」にて追加の金融緩和政策（マイナス金利政策）が実施されることが決まりました。それ以降、様々な経済への影響が出始めています。

この日銀のマイナス金利政策ですが、私達が銀行等に預ける際に銀行から手数料などを取られてしまう、ということではありません。我々が銀行にお金を預金しているのと同じように、金融機関も日本銀行にお金を預けているのです。これを日銀当座預金といいます。現在の残高は、約260兆円に達しているとのこと。これまでの量的緩和政策によって資金供給をしてきたわけですが、世の中に資金が出回らず、日銀に預金されてしまったということです。そこで、今後（2月16日以降）の政策金利残高に関しては、日銀当座預金に預けるとマイナス金利（ $\Delta 0.1\%$ ）になるという政策に打って出たわけです。これが、一つ目の「マイナス金利」です。その結果、金融機関が企業や個人への貸出を増やしたり、又は外国債券などへの投資、不動産投資信託など、何かしらの運用をするようになる、という目論みです。

そして、2月9日に10年物国債の利回りがマイナスに転じました。これが、二つ目の「マイナス金利」です。様々な要因がありますが、運用に関して国債に走ったため、（国債の）金利が下がって、マイナスになってしまったということです。つまり、満期に101円をもらえる国債を100円で買えば、年1%の利回りになりますが、102円で買うと手数料を払うかのように、満期に買った値段よりも少ない額しか戻らず、結果として、利回りはマイナスになります。

さて、日銀のマイナス金利政策によって、金融機関が収益を上げることが困難になったらどうなるでしょうか・・・。本来なら企業や個人に貸出を増やして、利ざやで儲けるのが理想ですが、資金需要がなかなか上がらない現状においては、金融機関としては、収益的にとても厳しくなるか

もしれません。無理して貸出を増やして不良債権を増やすより、手数料がかかっても日銀に預金をしておこうと判断する可能性だってあります。

金融機関は、どうやって収益をあげればよいのか？ そのしわ寄せをどこに寄せればよいのか？ そう、預金者である私達かもしれません。私たちが預金をすると事実上のマイナス金利になるときが来るかもしれません。これが三つ目の「マイナス金利」です。こうならないように願いたいものですが、多くの金融機関が軒並み預金金利を下げています。また、三菱東京UFJ銀行は、大企業などの普通預金に口座手数料を導入することを検討しているそうです。手数料の水準によっては事実上のマイナス金利になる可能性があります。中小企業や個人に対しては口座手数料の導入は見送るようですが、今後、他の金融機関も追随する可能性があるかもしれません。

最後に四つ目の「マイナス金利」ですが、優良企業においては、さらに資金を借りてほしいあまりに、マイナス金利での提案なんてことがありうるかもしれません！ いやっ、さすがにこれはないかもしれませんが（苦笑）、今後、マイナス金利政策が及ぼす影響については注視が必要ですね。

中小企業への影響について

今後、貸出金利が下がる可能性はあると思います。また、保険商品の予定利率も引き下げられるでしょうから保険ファイナンスを計画している方は、注意が必要かもしれません。

企業の資金需要に関しては、急激に上がるのは困難でしょう。なぜならば、今でもなお、やはり“デフレ”から脱却できていないからです。しかしながら当然のことですが、業績のよい企業においてはチャンスであると思います。借り換えや金利の交渉ばかりでなく経営者保証など、総合的に有利なファイナンス交渉ができる余地が広がると予測いたします。是非、経営者の皆さんは、自社のファイナンスに関して検討してください。